

## 県大会組み合わせの基本原則

### 1、学校対抗

#### (1) シード対象大会

新人県大会 → 総体県大会 → 新人県大会

#### (2) 組み合わせの基本原則

- ① 地区大会優勝校を前大会のベスト4入賞地区のランキング順にブロックに配置する。(A→D→C→B)
- ② 前大会でベスト4に入賞している地区は、ランキング順に4ブロックに配置する。(A→D→C→B)
- ③ ランキングを持たない地区については抽選によりブロックを決める。
- ④ ブロックへの配置の手順。  
各地区がランキングを保持している場合の例：  
ランキング1位地区優勝校がAブロックの場合には、同地区2位校はB、C、Dのいずれかのブロックへ抽選により配置する。

### 2、ダブルス

#### (1) シード対象大会

総体県大会 → 総体県大会

#### (2) 組み合わせの基本原則

- ① 地区大会優勝ペアを前大会のベスト4入賞地区のランキング順に第1～4シードに配置する。
- ② 地区2位ペアは優勝ペアとは反対側のブロックに配置する。なお、前大会でランキング保持地区の場合には自動的にシード順位の低い側に配置される。
- ③ ランキングを持たない地区については抽選によりシードを決める。
- ④ 同一校の選手は同ブロックに偏らないように配置する。

### 3、シングルス

#### (1) シード対象大会

中部日本卓球選手権ジュニアの部県予選 → 全日本ジュニア県予選 → 新人県大会 →  
長野県ジュニア卓球選手権 → 国体県大会 → 総体県大会

#### (2) 組み合わせの基本原則

- ① 地区予選のポイントおよび前2大会の県大会のポイントの合計得点により順位をつける。  
例:新人県大会の場合 新人地区大会+全日本ジュニア県大会+中部日本ジュニア県予選
- ② 地区予選のポイント  
1位 24点 2位 16点 B4 12点 B8 8点 B16 4点
- ③ 県大会のポイント  
1位 24点 2位 16点 B4 12点 B8 8点 B16 4点 B32 1点
- ④ ポイントをもとに学校バランスを考慮しながら配置する。1回戦での同地区の対戦を避ける。
- ⑤ シード対象大会に出場していない選手について専門委員会で協議の上ポイントを与える場合がある。